1999年度 システム・ネットワーク化情報交換会 議事録

司会: 中京大学 小島 英治
記録: 愛知大学 三浦 文博
日時: 1999年12月10日(金) 10:00～17:00
場所: 金城学院大学図書館
参加大学: 26大学 36名
愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、愛知みずほ大学、岐阜経済大学、岐阜聖徳学園大学、金城学院大学、皇學館大學、椙山女学園大学、鈴鹿医療科学大学、大同工業大学、中京大学、中部大学、東海学園大学、東海女子大学・東海女子短期大学、豊橋創造大学、名古屋学院大学、名古屋経済大学、名古屋商科大学、名古屋女子大学、名古屋造形芸術大学、南山大学、日本福祉大学、名城大学

プログラム:

10:00 会場校挨拶 金城学院大学図書館長 西原 一幸氏
10:10 委員長挨拶 情報化委員会 小島 英治氏
10:15 機械化アンケート集計結果発表

川上委員(豊橋創造大学)より、アンケート集計結果の発表が行われた。アンケートの結果から、昨年に引き続き機械化が進んでいること、データ格納率の向上が示された。報告内容は以下の通り。
なお、アンケート調査項目の新規追加・削除・変更についての報告があった。

- 機械化状況
  一部稼動を含め9割以上が稼動中
- 図書データ数
  図書データ格納率が昨年よりUpしている(格納率90%以上 昨年9館→17館)
- 雑誌データ数
  全体的に格納率が上がっている
- 学内LAN・図書館LAN利用状況
  大学LAN・ホームページはほぼ完了している。図書館LAN・ホームページは7割が設置済み
- 大学ホームページメンテナンス組織
  大学全体を統括する部署が行っているところが多い
- 図書館ホームページメンテナンス組織
  自館でメンテナンスを行っている図書館が多い
- CD-ROMサーバ稼動状況
  CD-ROMサーバ稼動館の数が昨年より増加している
- CD-ROMサーバ種別
  WindowsNT, NSCDNetを利用している館が多い
- CD-ROMタイトル
  CD-HIASKなど全部で52タイトル
- 業務端末数
  端末の数は昨年とほぼ同じで、あまり変動が無い
- 利用者端末
  9割以上の図書館でインターネットが利用可能な利用者端末を設置している
- 図書館ネットワーク管理
  図書館のネットワーク・Web Server管理者は昨年より増加している
- 電子ジャーナル購読
  約3割が電子ジャーナルを購読中
- 所蔵資料の電子化について
  電子化を行っている館は3館しかない

<引き続き>
参加館による情報交換
各館からアンケート回答について以下の補足・訂正がなされた。
愛知学院大学
洋書遡及中のためDB数は8万冊程度増加している。インターネット利用端末は学生が申し込みすれば利用可能な端末を2台設置している。

愛知学泉大学
CD-ROM タイトルは判例体系と EBSCO の 2 タイトルが利用可能。
愛知工業大学
図書システムのパッケージ名 LOOKS21 は他館の LOOKS21/U と同じかどうか不明。
愛知淑徳大学
夏休みに Limedio を新規導入済み。稼動中のサブシステムは目録・閲覧・OPAC・相互貸借。来年 4 月に受入れ、再来年の 1 月に雑誌管理が稼動予定。導入を予定していた CD-ROM サーバは取りやめ、外部データベースを構築中。
愛知大学図書館
和雑誌数 ＜ DB 数となっているので再度確認する
愛知みずほ大学
利用者端末機台数は無し（業務用のみ）
岐阜経済大学
雑誌数 ＜ DB 数となっている原因は変遷も 1 タイトルとしても含めているため
岐阜聖徳学園大学
今年度から図書館ホームページを作成し公開中。
金城学院大学
変更無し
皇學館大學
和・洋図書蔵書数と DB 数は同数になっている
椙山女学園大学
変更無し
鈴鹿医療科学大学
利用者端末台数は Windows 9 台, Mac 1 台
大同工業大学
リプレース予定について 2003 年 4 月に訂正。蔵書の DB 数は古い洋書が一部未入力だが、それ以外はほぼ入力済み。雑誌については全件入力済み。今年から大学ホームページメンテナンス組織は社会交流センタに変更。図書館システムの入替え（1999 年 4 月）に伴い図書館ホームページを開設。CD-ROM については引き続き検討中。利用者端末台数は OPAC 8 台のほか、情報処理センタが設置している WindowsNT 5 台がある。
中京大学
業務用台数全 70 台うち豊田校舎については事務 15 台、利用者 10 台が設置されている。
中部大学
昨年の 4 月から閲覧・目録、今年の 4 月から受入・雑誌のシステムを稼動。リプレース予定は契約切れの期日を記載している。今年の 6 月から遡及入力中。未入力 10 万冊中、1 万冊ぐらい完了している。
東海学園大学
変更無し
東海女子大学
利用者端末 9 台→10 台に変更。CD-ROM タイトルは朝日新聞記事もネットワーク対応
名古屋学院大学
所蔵資料電子化の学内刊行物とは図書館報のことで、印刷業者から PDF ファイルで提供を受け、ホームページで公開している。電子ジャーナルの NichigaiWeb や日経テレコンは設問にあっていないかもしれない。
名古屋経済大学
コンピュータ化について導入中となっているが、稼動中に訂正する。
名古屋商科大学
変更無し
名古屋女子大学
利用者端末の Windows95 10 台はすべて WindowsNT Workstation。現在、芝居番付資料を電子化している。来年度に学外にもネットワーク上で公開・提供する計画（CD 約 3 枚）
名古屋造形芸術大学
和書の遡及は完了。洋書の未遡及は 1 万冊程度。
南山大学
電子化については図書館報を HTML、PDF 化し図書館ホームページにて公開中

日本福祉大学
CD-ROM ネットワークタイトル名の約半分はことえり電子辞書に含まれている。ことえりを 1 タイトルとすると 10 タイトル程度となる。
名城大学
利用者端末台数 14 台に変更。
豊橋創造大学
変更無し

アンケート項目中の雑誌数・DB 数のカウントについて、「雑誌はどのようにカウントすればいいのか。タイトル数なのか製本数なのか」、「タイトル数だとすれば変遷前後も1タイトルとするのか」という質問がなされ、「タイトル数でカウントして回答している」、「所蔵のついている書誌の種類数でカウント」といった回答があった。また、今回参加館のほぼすべての館についても書誌数のカウントで提出しているということであった。本項目については今後「タイトル数でカウントする。ただし書誌のみで所蔵のないものについてはカウントに入れないこととする。」との回答があった。

新規項目の電子ジャーナルについて、「NichigaiWeb などは電子ジャーナルとして扱うのかどうか」という質問がなされ、「質問中の電子ジャーナルとは、電子的に 1 次情報が得られるもののみを示し、またそれとは別項目で 2 次情報のみのサービスを分けて設問する」との回答があった。

「学内で作成し電子化されたデータ(画像)を学外へ公開したいのだが、他に事例はないのか」との質問が名古屋女子大学からなされたが、東海地区での事例はないとのことであった。

「資料の電子化について、館報などの学内刊行物についても含めるかどうか」というアンケート項目に対する質問がなされた。これに対して「一時的な物(更新されてなくなってしまうもの)は含まないが、継続的に発行され保存されるものは含めてはどうか」、「資料の電子化の項目については、研究や学習に使用する所蔵資料(絶版のもの・貴重資料等)をデジタル化して公開しているものだけを含め、図書館の広報として使用する館報のような学内刊行物等は別項目で問い合わせてはどうか」、「資料の電子化という項目は電子図書館の現状・動向を見るための項目として所蔵資料の電子化だけにし、学内刊行物は別項目としたほうがいい」といった意見が出された。

〈講演は都合によりプログラムの入替えを行った。〉
司会:名古屋商科大学 下口 ウェイン 正則

13:00 講演2「電子書籍の最新動向」
イースト株式会社 コミュニケーション事業部長 下川 和男氏
電子書籍(Rocket eBook, Open eBook)や電子出版についての現状や今後の展望など、様々なハードウェアやソフトウェアについての紹介や解説がなされた。

講演終了後「Voyager について説明がなかったがどうなのか」という質問がなされ、「Voyager は現在日本での活動は盛んだが、アメリカでは無くなっている。現在アメリカでは Voyager を進めていた人は Night Kitchen というプロジェクトをはじめている。」との回答がなされた。
また、「電子書籍コンソーシアムはどうなっているのか」という質問がなされ、「電子書籍コンソーシアムは 1998 年 10 月発足し、通産省のバックアップで出版業界とメーカ(SHARP, 日立, NTT)が組んで、実証実験を行い、2000 年 3 月で終了する予定。その後は、事業化のプロジェクトが進んでいく予定である。」との回答がなされた。
また、「電子書籍が普及していった後の図書館という組織体はどうなっていくとおもわれるか」という質問がなされ、「電子書籍においては Internet 上に、各ジャンルに毎に 1 つあればあとは全世界からダウンロードするだけでいいため、各地にある必要はない。例えば巨大なサーバが各国にあり、自国の全ての本がそこに入っていればいい。ただし、組織や地域に密着したいろいろなインフォメーションサービスの部分が図書館の役割として残っていくのではないかと思われる。」との回答があった。

14:00　講演1「新 CAT システムにおける UCS の採用について」

学術情報センター 事業部 目録情報課 目録専門員 富田 健市氏

2000 年 1 月より運用開始が予定されている学術情報センターの多言語対応目録システムにおける文字セットや外字、新規設置フィールドについての注意点などの説明がなされた。

15:30　プレゼンテーションセミナー1「WADEX/DVD-ROM について」

東京経済大学図書館 細井 五氏 ・ 教育情報株式会社

東京経済大学図書館の現状から雑誌資料の電子化に取り組まなくてはならなくなったいきさつ、電子化による労力の軽減化などの説明がなされた。
資料のデジタル化に際しては、保存のための容量が多く扱いにくいなどの問題があるが、作成が容易でレイアウトなどの状態が保存できるイメージを採用していることが報告された。ただし、これらの短所については、ハードウェアの進化によって現在はクリアされているとの認識が示された。
また、著作権についても、保存のためのデジタル化であれば問題がないこと、著作権料の徴収が可能なシステムであることが報告された。
また、最後に WADEX を搭載した実機での検索・表示のデモンストレーションが行われた。

セミナー終了後、「WADEX は学内だけでなく学外からも接続可能なのか」との質問が出され、「WADEX の索引部分を学外へ出すことは可能」との回答がなされた。

16:45　プレゼンテーションセミナー2「EpicWin について」

ミノルタ株式会社・丸善株式会社

マルチページファイルの作成、メール・FTP による送付、枠消しなど、実機によるデモンストレーションが行われた。

17:00　終了

以上